

果樹カメムシ類情報第1号

平成30年5月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

新城市のチャバネアオカメムシのフェロモントラップで
4月第4、5半旬に誘殺数急増！
今後、平坦部においても多飛来の可能性あるので防除の準備を！

1 発生状況

- (1) 今年のチャバネアオカメムシ（図1）の越冬成虫密度調査（県内15地点）において、確認地点割合は過去10年で最も高く（13地点で確認）、平均越冬成虫密度は1.6頭/m²で、過去10年で3番目に多い状況でした。
- (2) 新城市に設置したチャバネアオカメムシのフェロモントラップにおいて、4月第5半旬までに計138頭誘殺され、過去10年で最も多い状況です（図2）。幸田町、豊田市においても、徐々に誘殺され始めています。
- (3) 今後、気温の上昇とともにさらに活動が活発になり、平坦部の果樹園に多飛来することが予測されます。



図1 チャバネアオカメムシの成虫

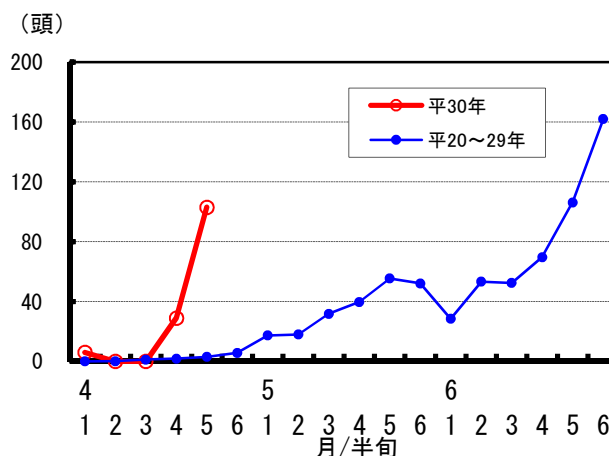


図2 新城市のフェロモントラップにおける
チャバネアオカメムシの誘殺状況

2 防除対策

- (1) 果樹カメムシ類は、20℃以上で風がない夜に行動が活発になり、長距離の移動をするようになります。そのため、突然、平坦部の果樹園に飛来しますので、園内をよく見回り、成虫の飛来状況を確認しましょう。
- (2) カメムシ類は局地的に飛来して、集中して加害する傾向があります。また、園地間差が大きいので、過去にカメムシ類の被害が多かった園では特に注意しましょう。
- (3) 越冬世代成虫量が多い年は飛来が長期間続くので、飛来を確認したら、平成30年4月3日発表の「平成30年度病害虫発生予察注意報第1号」を参考に、残効の長いネオニコチノイド剤もしくは合成ピレスロイド剤を散布しましょう。